

コミュニティ協同組合の理論と実践、その可能性を探る —イタリア視察調査報告—



イタリア視察調査の背景

協同総研は2018年度の活動計画に、スペイン、イタリアへ調査団の派遣を掲げた。2018年9月～10月のスペイン訪問に続き、2019年2月20日から3月1日にかけて実施したイタリアのコミュニティ協同組合の視察・調査について本号で報告する。

日本労協連は、1980年代の調査以降、イタリアの協同組合運動からさまざまな示唆を受け、日本における労働者協同組合運動を進めてきた。その後も協同総研の主催により1997年、2003年に社会的協同組合の調査を行い、2005年秋には日本労協連と共に社会的協同組合の実態・社会的インパクト、レガコープによる労働者協同組合運動の発展を焦点とした調査を行っている。（『協同の発見』161号、162号、163号で報告）

今回のイタリア訪問はそれ以来の本格的な調査となったが、この13年間に私たちの労働と生活をめぐる社会環境はさらに厳しいものとなっている。グローバル資本が世界を駆け巡る時代にあって、それに対抗する社会的連帯経済（社会的経済および連帯経済）を市民がつくる運動が世界各地で立ち上がっている。我が国においても、「労働者協同組合法」の制定がいよいよ実現のときを迎え、市民を主体とした地域経済の登場が期待される。

こうした時代背景のもと、人間らしい社会をつくるために協同組合の存在意義をあらためて問い直し、協同組合がその一翼を担うとすれば、それはどのような形で実現されるのか、多様な実践が積み重ねられてきたヨーロッパの協同組合の最新事例を調査するために、2つの海外視察調査は計画された。法制化後に労働者・市民が主体となって設立するワーカーズコープの姿をイメージするためにも、ちょうどいいタイミングだった。



調査のねらい

私たちが今回のイタリア調査で焦点をあてたのは、コミュニティ協同組合という新しい取り組みだった。イタリア現地調査が途絶えていたこの間も、田中夏子理事より本所報の海外レポート「資料から読むイタリアの社会的経済」シリーズで、イタリアの協同組合の現況を丹念にご報告いただいた。特に252号、257号、261号、299号で報告さ

れたコミュニティ協同組合の取り組みは、我が国における困難を抱える地域の再生問題とも重なり、労働者協同組合を持続可能な地域づくりに活かそうとする私たちの問題意識とも合致してたいへん興味深いものであった。

田中氏の報告からコミュニティ協同組合の特徴や現状をみると、①地域社会にとっての利益を創出することを第一の目的とする、②マルチステークホルダー型協同組合である、③協同組合全国組織レガコープが財政支援している、④国レベルの法律はまだないが、一部では州法に規定されるなど自治体の支援がある、といったことがあげられる。特に、人口減少に直面した山間部、高失業率を抱える南部イタリア、イタリア中部地震により被災した地域など、困難を抱える小規模自治体において積極的に取り組まれているということだった。

しかし、2010年にレガコープがコミュニティ協同組合の創出・育成を全体方針として掲げてから各地で設立が進んでいるようではあるが、限られた情報しか得られないなかで、なかなか実態がつかみきれなかった。そこで、今回の調査では、コミュニティ協同組合の定義や設立の条件などについて基本的な理解を深めることと同時に、これまで日本の研究機関が訪問していない地域にねらいを定めて実態調査活動を行うことを計画した。



調査訪問先

イタリアのコミュニティ協同組合の実践事例の多くは、比較的協同組合活動が活発な北部地域に集中していたが、今回の調査では、まず経済的に疲弊している南部イタリア地域における事例としてプーリア州メルピニャーノのコミュニティ協同組合訪問を決めた。もう一つイタリア中部地震の被災地域においてコミュニティ協同組合による復興活動がはじめられているという情報をもとに、マルケ州への調査を決めた。レガコープ本部のコミュニティ協同組合部門担当者のパウロ・スカラムッチャさんの取り計らいで効率よく計画を立てることができた。全行程と訪問地については、資料をご覧ください。

今回の視察調査活動は、短期間に長い距離を効率よく移動する必要があったので少人数での調査となった。調査団のメンバーは、田嶋康利(日本労協連専務理事)、田中夏子(協同総研理事)、牧野斉子(センター事業団理事)、利根川徳(協同総研専務理事)、荒井絵理菜(協同総研事務局)の5名で、ポーロニャ在住の市口桂子さんに全行程の通訳をお願いした。



報告の構成

合計26名の方にインタビューを行い、録音データなどの記録を持ち帰った。残念ながら本号で全てを詳細に報告することはできないが、全体像、ポイントとなるインタビューについて分担して書き起こした。

まず、視察調査の全容については、田嶋康利氏の調査報告レポートを掲載させていた（田嶋氏は毎晩ホテルで熱心にレポートをまとめられていた）。

今回の訪問で、コミュニティ協同組合とは何かということを理解する上で、特に重要なポイントとなったのが、パウロ・スカラムッチャ氏（レガコープ・コミュニティ協同組合部門責任者）とアンジェロ・モーリ氏（フィレンツェ大学教授）のお話だった。お二人からのレクチャーは、田中夏子氏が全文翻訳してくださった。

コミュニティ協同組合の実践については、南部プーリア州の2つの協同組合（メルピニャーノ、アルベロベッコ）、中部地震被災地マルケ州の4つの協同組合（シビリーニ、チェレーザ、フィアストローネ、カメリーノ）のインタビュー報告を掲載した。

最終日のミラノでは、ミケーレ・ビアンキさん（ウルビーノ大学研究者）の案内で社会的協同組合オリンダと2つのアソシエーションを訪問したが、ディナモスコピオ（アソシエーション）を訪問しての感想を牧野斉子氏に書いていただいた。

残念ながら、メルピニャーノ市長、レガコープ・プーリアのインタビューなど掲載できなかった部分もあるので、また別の機会で報告していきたいと思う。また、今号の報告では、まず一次資料をできるだけ正確に提供することに注力している。実際に現地調査を終えて、どのようにコミュニティ協同組合の取り組みを評価し、私たちの実践に生かしていくのか、踏み込んだ議論はまだできていない。調査団のメンバーそれぞれがイタリア訪問を通して感じたこと、考えたことをお互いに出し合って本調査の意味を深めるような機会もなかったので、6月29日に予定されている調査報告会ではぜひ活発な議論をしていきたい。

最後に、訪問先の選定、依頼、折衝等について、田中夏子理事にはたいへんなご苦勞をおかけした。また、2018年に協同総研を訪問してくださったコミュニティ協同組合の研究者であるミケーレ・ビアンキさん、日本生協連の和田寿昭氏、同国際部の宮沢佳奈氏にも多大なご尽力をいただいた。この場を借りて感謝申し上げたい。

利根川 徳（協同総合研究所 専務理事）

■ 資料 1 イタリア視察調査全行程

2月20日(水)

(航空機)成田14:00発→ローマ19:00着/ローマ21:30発→プリンディジ22:40着
(タクシー)プリンディジ→レッチェ23:30着

[宿泊]レッチェ

2月21日(木)

(ミニバン)ホテル9:00発→メルピニャーノ9:40着

・メルピニャーノ市庁舎訪問 イヴァン・ストメオ市長インタビュー 10:00~12:00



・メルピニャーノ・コミュニティ協同組合訪問 13:00~16:30

協同組合が管理・運営する公園、カフェで昼食&理事長・副理事長にインタビュー
ソーラーパネル(屋上にあるためよく見えなかった)、ウォーターハウス見学



(ミニバン)ホテル17:00着

[宿泊]レッチェ

2月22日(金)

(ミニバン)ホテル8:00発→アルベロベッロ10:00着

・コミュニティ協同組合ファバーシティ訪問 10:00~12:00

市内見学の後、アンジェラ・ノッタルニコラ副理事長にインタビュー



(ミニバン)アルベロベッロ→バーリ

・レガコップ・プーリア訪問 14:00~16:00

カメロ・ロッコ代表、バスケル・フェランテさんなどにインタビュー



(ミニバン)バーリ市内→バーリ空港

(航空機)バーリ19:20発→ローマ20:25着

[宿泊]ローマ

2月23日(土)

(徒歩)ホテル9:30発→レガコープ本部10:00着

- レガコープ本部訪問 10:00~12:30
レガコープ・コミュニティ協同組合部門責任者のパウロ・スカラムッチャさん、研究者のミケーレ・ビアンキさんからコミュニティ協同組合についてレクチャーを受けて質疑応答



[宿泊]ローマ

2月24日(日)

(ミニバン)ホテル12:30発→コムナンツァ16:00着

- マルケ州コムナンツァ地域の2つのコミュニティ協同組合(シビリーニ、チェレーザ)、レガコープ・マルケ代表のファビオ・グロセッティさん、スカラムッチャさんも合流して、農家レストランでインタビュー 18:00~22:30



[宿泊]コムナンツァ

2月25日(月)

(ミニバン)ホテル8:00発→カメリーノ9:00着

- カメリーノ大学で、2つのコミュニティ協同組合(カメリーノ、フィアストローネ)、レガコープ・マルケのマッシモ・ランツァベッキアさん、カンボロトンド・ディ・フィアストローネ市長、カメリーノ大学学長クラウドディオ・ペティナーリさんにインタビュー 9:00~11:00



- イタリア中部地震で被災した旧市街(歴史地区)を視察 11:30~12:30



(ミニバン)カメリーノ15:00発→フィレンツェ18:00着

[宿泊]フィレンツェ

2月26日(火)

(タクシー)ホテル9:30発→フィレンツェ大学10:00着

- ・フィレンツェ大学でアンジェロ・モーリ教授からコミュニティ協同組合についてのレクチャーを受ける 10:00~12:00



(列車)フィレンツェ→ボローニャの街を見学→ミラノ着
[宿泊]ミラノ

2月27日(水)

(ミニバン)ホテル10:00発 ミケーレ・ビアンキさんが1日コーディネートして下さいます。

- ・コープの店舗見学、店長より説明を受ける 10:00~11:00
- ・社会的協同組合オリнда訪問 11:30~13:30
ロサーリオ・クットゥリさん(労働統合参加の責任者)から説明を受け、オリндаが運営するレストランで昼食。



- ・ディナモスコピオ(アソシエーション)訪問 14:00~15:30
副代表のマルタ・メローニさんに話を伺う。



- ・バリオ(アソシエーション)を訪問 16:00~17:00
ジェンマ・マルケジャーニさん、モニカ・ミラネッシさんに話を伺う。



[宿泊]ミラノ

2月28日(木)

(タクシー)ホテル9:00発→ミラノ・マルペンサ空港9:40着

(航空機)ミラノ11:25発→ローマ12:40着/ローマ14:55発→成田11:10着(3月1日)

資料2 イタリア視察調査マップ



■ 資料3 イタリア視察調査 インタビュー・リスト

No		氏名	所属・肩書き	日時・場所
1		イヴァン・ストメオ	メルピニャーノ市長	2月21日・メルピニャーノ
2		グラツィア・ジョバネッティ	メルピニャーノ・コミュニティ協同組合代表	2月21日・メルピニャーノ
3		サラ・チェルッロ	メルピニャーノ・コミュニティ協同組合副代表	2月21日・メルピニャーノ
4		アンジェラ・ノットルニコラ	ファバー・シティ(アルベロベッロ・コミュニティ協同組合)副代表	2月22日・アルベロベッロ
5		カメロ・ロッコ	レガコープ・プーリア代表	2月22日・バーリ
6		パスカル・フェランテ	レガコープ・プーリア	2月22日・バーリ
7		カティア・デ・ルカ	レガコープ・プーリア	2月22日・バーリ
8		パオロ・スカラムッチャ	レガコープ本部コミュニティ協同組合部門責任者	2月23日・ローマ 2月24日・コムナンツァ
9		ミケーレ・ビアンキ	ウルビーノ大学研究者	2月23日・ローマ 2月27日・ミラノ
10		ファビオ・グロセッティ	レガコープ・マルケ代表	2月24日・コムナンツァ
11		ウーゴ・パッツィ	シビリーニ・コミュニティ協同組合代表/スローフード協会マルケ州代表	2月24日・コムナンツァ
12		シルビオ・アントニョッツィ	シビリーニ・コミュニティ協同組合副代表	2月24日・コムナンツァ
13		アレッシア・ロッシ	チェレーザ・コミュニティ協同組合副代表	2月24日・コムナンツァ

14		マッシモ・ランツァベッキア	レガコープ・マルケ	2月25日・カメリーノ
15		エマニュエル・トンディ	カンボロトンド・ディ・フィ アストローネ市長 カメリーノ大学教授	2月25日・カメリーノ
16		イヴァンノ・カベラッチ	フィアストローネ協同組合	2月25日・カメリーノ
17		エリゼイ・サンテ	カムオン(カメリーノ・コ ミュニテ協同組合)代表	2月25日・カメリーノ
18		ダニエラ・マッシーミ	カムオン(カメリーノ・コ ミュニテ協同組合)	2月25日・カメリーノ
19		マルコ・パニシア	カムオン(カメリーノ・コ ミュニテ協同組合)副代表	2月25日・カメリーノ
20		カルロ・オルソリーニ	カムオン(カメリーノ・コ ミュニテ協同組合)	2月25日・カメリーノ
21		クラウディオ・ペッティナリ	カメリーノ大学学長	2月25日・カメリーノ
22		アンジェロ・モーリ	フィレンツェ大学教授	2月26日・フィレンツェ
23		ロザリオ・クットゥリ	オリンダ(社会的協同組合) 労働統合参加の責任者	2月27日・ミラノ
24		マルタ・メローニ	ディナモスコピオ(アソシ エーション)	2月27日・ミラノ
25		ジェンマ・マルケジャーニ	バリオ(アソシエーション)	2月27日・ミラノ
26		モニカ・ミラネッシ	バリオ(アソシエーション)	2月27日・ミラノ